

地域ぐるみで捕獲を行う

■ なぜ捕獲が必要か？ ■

今、あなたの集落で被害を及ぼしているイノシシたちは、この集落を良い餌場と思っています。被害を減らすためには、イノシシたちを捕獲するのが効果的です。集落周辺で生活するイノシシの個体数を抑えるためには、イノシシに対して脅威となる「捕獲」が必要です。

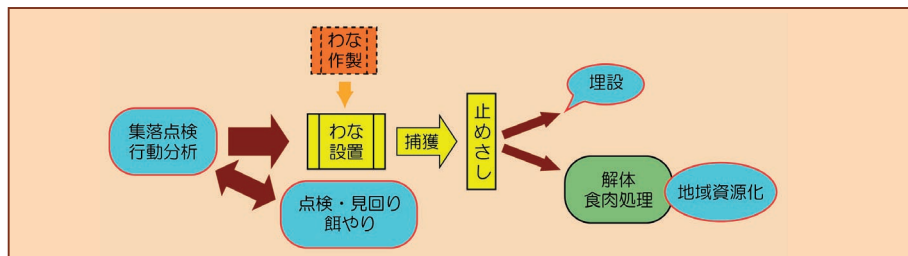
■ 一人ではできない対策も、みんなでやればうまくいく ■

とは言うものの、イノシシの捕獲となれば狩猟免許は必要ですし、わなの作製や購入、設置、日常の点検、餌まき、止めさし^{*}、埋設など大変な労力と経費がかかります。また、イノシシの痕跡や獣道、又夕場、寝床などを調査し、把握しておくことも大切です。農家が個別に対策を取っても、経済的負担は大きく、また被害が他の農地や地域に分散、拡大していきだけです。しかし、集落みんなで取り組めば、被害軽減に効果的で経済的負担も軽くなります。

⇒ 20～21 ページ集落点検へ！！

被害対策に効果を上げている集落では、わな組合や捕獲実施隊など捕獲を中心にした組織を作り、下図のような役割をみんなで分担し、捕獲を進めています。また、捕獲したイノシシの処理は埋めれば終了ですが、食肉利用することで他地域や他産業への波及効果も狙っています。

下図に示した役割のうち、黄色は狩猟免許が必要ですし、オレンジ、緑の部分は技術や道具が要求されますが、青色の部分は慣れれば誰でもできます。さらに、狩猟免許を積極的に取得することも必要です。イノシシ対策を地域で効果的に進めることで、仲間意識や競争意識を呼び起こし、地域の活性化にも役立てられます。これは他の被害対策にも繋がります。



※止めさし：わな捕獲の後に行う殺処分のこと

■ 集落ぐるみで対策に取り組みましょう ■

地域全体のイノシシ被害を減らすためには、個人の田畑での対策だけでなく、集落ぐるみの対策が必要です。イノシシ対策の基本にもとづくと、①捕獲、②防護柵、③餌場、隠れ家、通り道をなくすための草刈りなどの対策を組み合わせる必要があります。これらを集落みんなの協力で実施することが、重要です。集落の区長や農家組合長などに働きかけ、みんなで対策を考える機会を作りましょう。

⇒ 18 ページ イノシシ対策の3つの方法 !!

1 被害状況、害獣の痕跡を調査し、地図に記入する

対策を検討する仲間数名でグループを組んで、集落内を歩いて次の項目について、調査します。①被害発生場所、②イノシシの目撃地点、③イノシシの痕跡、④餌になる作物、⑤耕作放棄地、⑥隠れ家になりそうな藪、⑦防護柵の設置状況 など。

つぎに、この点検結果を地図に記入してみると、イノシシの侵入経路や生息場所、被害を受けやすい場所など、イノシシの行動や対策上の弱点が明らかになってきます。



被害状況等を点検。



点検結果を地図に書き込む。



←点検結果を地図にまとめる。
被害を受けやすい場所や対策すべき場所が見えてくる

2 専門家のアドバイスを受けながら、課題を明らかにする

被害を受けるほ場は何が原因か、防護方法は適切か、周辺の環境はイノシシの快適な隠れ処や住み処になっていないかなどの課題を、専門家のアドバイスを受けながら、明らかにしていきましょう。



イノシシのネヤ（寝床）発見

3 対策案を考える、対策の優先順位を決める



電気柵の設置

対策の基本①②③について、集落内のどこで何をすべきか、具体的に考えます。また、被害の大小や緊急性、労力や予算などを含めて、対策の優先順位を決めます。

4 集落の住民に、現状と対策を説明し、協力を得る

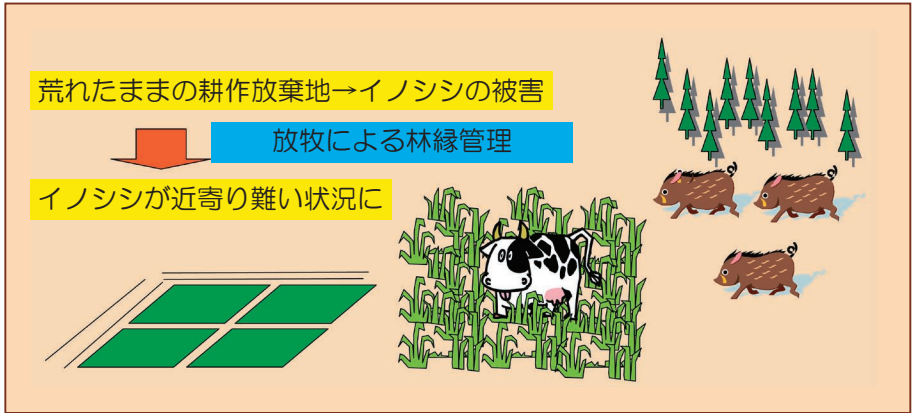
対策が決まっても、集落単位での対策は、個人ではできません。集落の環境保全のためにも、獣害対策の実施が必要なことを区会などで住民に十分に説明し、草刈り作業や防護柵の設置作業などについて協力を得られるようにしましょう。点検結果や対策を検討した地図をみてもらうと、みんなが理解しやすいはずです。

5 集落みんなの協力で、対策を実施する

みんなの協力が得られたら、集落をぐるっと囲う防護柵の設置や林縁部や耕作放棄地の草刈り作業などの対策を計画的に実施しましょう。また、捕獲については、市町村や有害獣捕獲の資格を持った猟友会員と相談の上、進めましょう。このような集落ぐるみで行う獣害対策に対して、補助事業も整いつつあります。お住まいの市町村窓口へ問合せください。

放牧して害獣対策の一石二鳥

イノシシの生息地管理の一つとして、耕作放棄地での家畜の放牧があげられます。放牧はイノシシの隠れるやぶとクズの根などの餌を減らすことで耕作放棄地をイノシシにとって魅力の薄い場所に変え、農地へイノシシが近寄りづらい環境を作ることができると考えられます。



千葉県畜産総合研究センター嶺岡乳牛研究所では、林縁の耕作放棄地（約40a）へ黒毛和種雌牛2頭を放牧し、山と農地の間に緩衝地帯を作る放牧（放牧ゾーニング）試験を行っていますが、平成22年4～11月の調査では放牧を連続して行うことで放牧地周辺のイノシシの出現頻度が近隣の里山や耕作放棄地に比べ低下しました（下グラフ参照）。このことから放牧ゾーニングがイノシシの農地への侵入を抑制する可能性が考えられ、林縁管理の労力を軽減する上で効果的であることが示唆されました。

